

こんな活動です

# 子供をお客さんにしない！ —地域教育力を活かし、地域に貢献するCS—

熊本県荒尾市

活動名

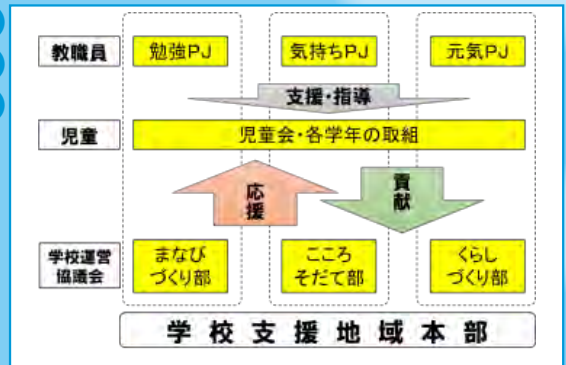
荒尾第一小学校学校運営協議会

関係する学校名

荒尾第一小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所		学習支援			放課後児童クラブとの連携		
	土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	指定日 平成25年4月1日					委員数 14人	児童生徒数 439人	学級数 18学級	

体制図



**活動の概要・経緯**  
平成25年4月から、荒尾第一小学校ではコミュニティ・スクールをスタート。当時、子供たちの社会性の欠如や生徒指導上の諸問題を抱える中、学校運営協議会において学校と地域が一体となって子供の健全育成に向けた熟議が何度も繰り返されていた。そのような中、平成17年度に発足していた「元気づくり委員会」は一大イベントである「音と光の祭典」を毎年実施していた。本校の子供たちも毎年ステージ発表という形で「参加」していたが、運営協議会のメンバーでもある元気づくり委員会関係者から、「企画・準備段階から運営まで一緒に取り組ませてはどうか。」という提案があった。「子供の学びにつながる活動（主体性を育て、地域の一員としての自覚形成や貢献意識の向上）」であり、「地域としてもプラスになる活動」となるものであった。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【特徴的な活動内容】

- ・一小校区元気づくり委員会が行う、地域の一大イベント「音と光の祭典（辛亥革命を起こした孫文と交流のあった宮崎滔天の生家を舞台に、音楽や竹灯りの融合をテーマに掲げ、地域住民の手作りではあるが非常にクオリティの高いイベント）」に、子供たちをお客さんとして「参加」させるのではなく、企画段階から「参画」させ、地域と学校、子供たちが共に作り上げていること
- ・子供自らが課題を発見し、その解決策を話し合い、それらを企画に反映させていくことで、主体的な学びにつながっていること
- ・地域の人と同じ目的に向かって仕事を行うことは、家族以外の大人とのコミュニケーションスキル及び地域貢献の意識が高められるとともに、子供たちの自己有用感の獲得につながり、郷土に対する愛着が育てられていること
- ・子供たちが作業に加わることで、地域住民の労力軽減とともに、保護者がイベントに来場する機会となること（来場者数の増加）

### 【実施に当たっての工夫】

- ・総合的な学習の時間のカリキュラムを見直し、イベントの準備、実施、振り返りを含めた反省までを入れ込んだこと
- ・事前の打ち合わせ、前日までの道具づくり（灯籠作成等）、会場設営（のぼり旗設置、道具運搬、灯籠設置等）、当日の運営（受付、イベントのMC、会場案内、出演者接待、マルシェ＜駄菓子・金魚すくい等＞、事後の振り返りまでを確実にやったこと
- ・本イベントが土曜日に開催されることから、授業日に設定するなど市教委とも連携・協働を図ったこと
- ・元気づくり委員会において、子供たちをどのように受け入れるのか何度も話し合いを持つことで共通理解を図ったこと
- ・子供たちには、本イベントの目的や内容を理解させるだけでなく、疑問や不安について話し合いの機会を持ち、解決してきたこと
- ・学校及び学校運営協議会においても、これらの取組へのサポート体制を図るために、運営協議会の組織と学校の組織を揃えて熟議を重ねていること



地域のために裏方として作業に取り組む様子

## ● 事業を実施しての効果・成果

- ・参画意識を持たせたことで、自ら考え行動する子供たちの姿に対して、地域住民からの高評価を得ることができた。そのことで、子供たちは地域貢献の手応えを感じ、自己有用感を高めただけでなく、地域住民との繋がりが深まり社会性が身に付いてきた。
- ・地域から、本校のコミュニティ・スクールとしての成果及び子供たちの姿が認識され、5年生は「地域の文化祭運営」、4年生は「自発的な地域清掃活動」といった地域貢献への要請及び協力が増えてきた。
- ・子供たちが参画したことで、家族も関心を高め本イベントの来場者増に寄与している。
- ・活動を通して、地域の方との交流を大切に感じた子供が増えている。
- ・新たなプロジェクトが運営協議会から提案され、他の学年にも地域貢献や震災復興への取組が広がっている。



参画意識を持った子供たちと主催者による事前の話し合いの様子